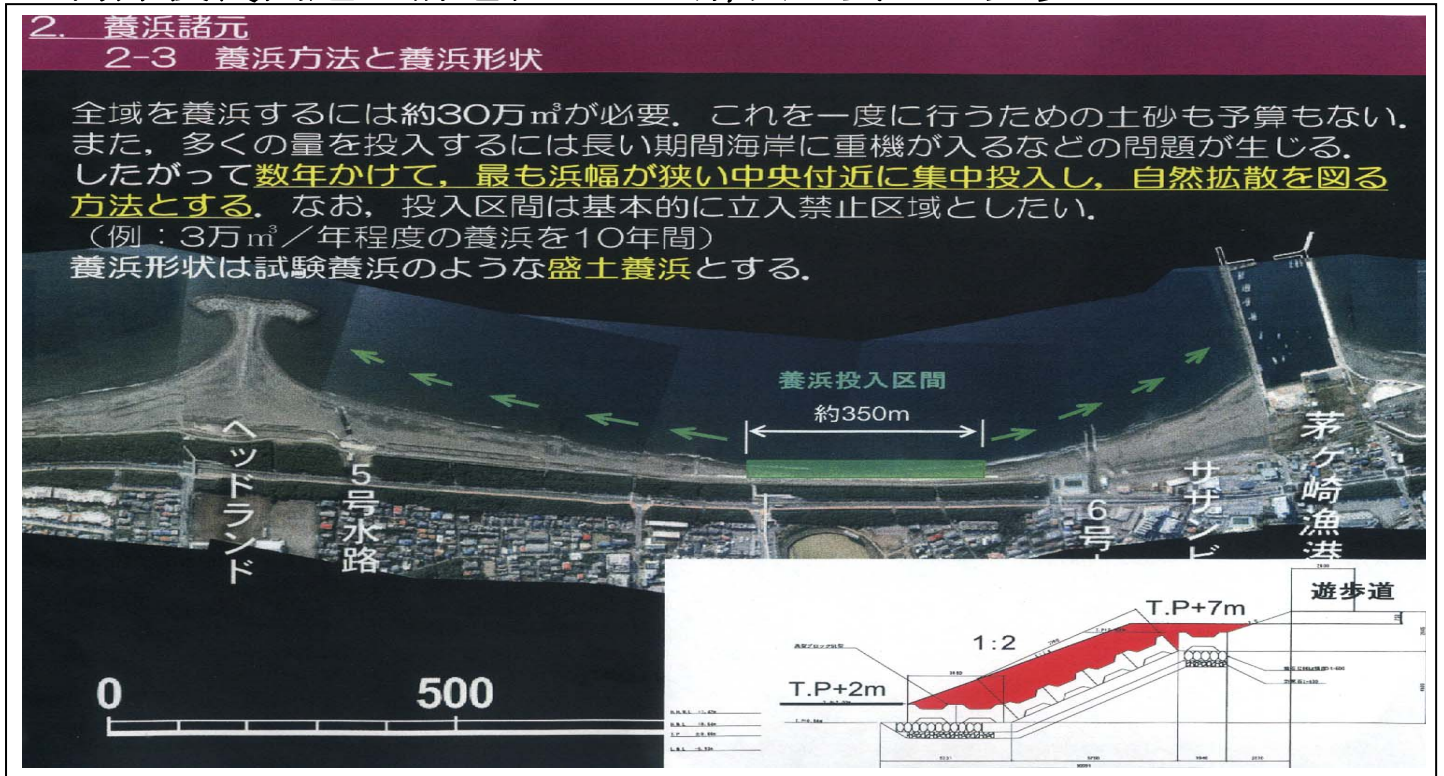


中海岸侵食対策は、構造物投入計画から、 砂礫による養浜に変更決定！

皆様に署名等で協力頂いた、
海岸侵食問題の構造物でない解決の要望が実現しました！



危機的に進行する海岸侵食に対し、これまで、行政は構造物の投入を繰り返してきました。これに危惧した私たちは、署名活動を行い、構造物に頼らない砂の投入による解決、山川海の連帯をもった解決が必要等を求めた要望書を添えて、平成 16 年に県へ提出しました。これに対して松沢神奈川県知事は強く共感をもって反応され、知事自身も現場視察も行い、海岸の危機を訴え、解決の方法として構造物の投入に疑問と表現し、山川海の連帯をもった解決が必要と、平成 15 年公式に表明され、平成 18 年に 13 市町の首長からなるなぎさ促進協議会を発足させ、相模湾なぎさシンポジウムも開催されることになりました。その後のメディアでは、全国に広がる海岸侵食問題をたびたび取り上げられた事を、ご存知の方も多いとおもいます。

茅ヶ崎市中海岸の侵食に対しては、中海岸浜辺作り協議会が平成 12 年に発足し、中海岸侵食問題について協議、任命され参加した委員の全員が当初より、砂の問題には砂をもって解決を求めましたが、国の予算のつけ方として構造物の前提でないとならないと不可能とされ、結果、レンズ礁という形の構造物に結論が出されました。それに疑問を持ち続けた私たちは、前出の活動を通して、これに反対し皆さんの協力を得た事で、一度結論が出た、中海岸浜辺作り協議会の決定を再審議する事になり、本年 4 月から中海岸侵食対策協議会として再発足することが出来、この 9 月 24 日の協議会にて砂礫の投入による養浜と決定しました。加えて、サーフィンはこの地茅ヶ崎には活力原であると訴え、サーフポイントの減少にならない方法を取ることが協議内容に記録されました。

今回に決定は大きな進歩と言えますが、それでも侵食問題の原因の改善に直接関る山川海連帯の対策には触れておらず、中海岸を含む茅ヶ崎海岸全域で侵食が進行していますので、私たちは引き続き海岸侵食の抜本的解決を求めてか活動を続ける、必要があります。また、それが全国に広がる海岸侵食問題の解決に繋がる道筋と考えています。

ほのぼのビーチ茅ヶ崎代表 大坊 裕
茅ヶ崎市サーフィン業組合 理事長 伏見康博